

関西国際空港の強化に向けた要望書

平成27年 8 月

関西国際空港全体構想促進協議会

関西国際空港は、昨年度の発着回数が14.5万回と開港以来最高を記録し、旅客数は2000万人を14年ぶりに突破しました。なかでも外国人旅客数は699万人と、日本人旅客数を初めて上回り、訪日外国人観光客の急増ぶりを顕著に示しています。また、貨物取扱量はフェデラル エクスプレスの北太平洋地区ハブの本格稼働などにより、前年度比で10%増となるなど、関空はこれまでにない活況にあります。

一方、人口減少や少子高齢化が進展する中で、我が国が持続的成長を遂げていくためには、複眼型国土構造への転換を進め、成長著しいアジアをはじめ諸外国との人流・物流をさらに活性化させていくことが重要です。

来年5月の「伊勢志摩サミット」、それに続く、「ラグビーワールドカップ」、「東京オリンピック・パラリンピック」、さらには「関西ワールドマスターズゲームズ」など、内外との交流を一層活発とする国際行事が目白押しに予定され、関西においても、ソフト・ハードの両面で訪日外国人の受入環境の整備が急務です。

こうした認識のもと、環境との共生が図られ、高い機能性を有する関西国際空港は、首都圏空港と並ぶ西の国際拠点空港として、さらに積極的に活用されなければなりません。

折しも、関西国際空港では、債務の着実な償還と国際拠点空港としての機能強化を図るため、民間の活力とノウハウを活用するコンセッションが進められており、我々自治体、経済界もこの取組みに大きな期待を寄せています。

地元といたしましては、今年度も新関空会社と連携し、インバウンド需要の拡大を見据えながら、中長距離国際線のネットワークの充実、アクセス利便性の向上、国際物流機能の強化、関西一円の物産・観光情報の発信強化などに取り組んでまいります。

国におかれましては、関西国際空港が引き続き、関西そして我が国の成長を担う国際拠点空港として着実に発展するため、必要な施策や措置が講じられますよう、下記のとおり要望いたします。

記

1. 関西国際空港が、アジアの空港に伍せる国際競争力を備え、我が国を代表する国際拠点空港として日本経済の活性化にも寄与できるよう、新たな航空需要の創出に対応する第3ターミナルの整備、羽田線をはじめとする国内路線網の充実、“食”や医薬品・医療機器等の物流拠点化の取組みなどに対して、積極的な支援・協力を行われたい。

2. 国の2020年の訪日外国人旅行者数2000万人の目標を見据えた観光立国の実現に向け、訪日観光需要が旺盛な国々からの旅行者向け観光ビザの適切な緩和推進、出入国審査場の混雑緩和に向けた設備や人員面での緊急かつ抜本的な措置など、国内でも特に増加が著しい関西国際空港の訪日外国人の受入環境の整備を図られたい。

また、LCCの就航拡大などによる利用者の増加を踏まえ、関空と関西各地を結ぶ鉄道、バス、船舶等の公共交通アクセスの利便性向上の促進を図られると共に、関西における訪日外国人の観光、宿泊、輸送等の受入対応を強化されたい。

3. コンセッションの実施にあたっては、関西国際空港の国際拠点空港としての機能強化、地域との共存共栄が図られるよう、関空の将来を託すにふさわしい運営権者の選定、運営権の設定等について、適切に権限を行使されたい。

また、関空開港以来構築してきた空港会社と国、地元との信頼関係を踏まえ、コンセッションの選考過程における必要な情報提供、コンセッション実施後の空港運営権者と地元との良好な関係の構築に努められたい。

4. 関西国際空港のアクセス利便性の向上に向け、大阪都心部と関空を結ぶ高速アクセス鉄道の事業可能性等について検討を更に進められると共に、なにわ筋線の早期具体化に向けた取組みに対し、積極的な支援を行われたい。

また、関空との輸送の速達性に寄与する高速道路ミッシングリンクの解消についても着実に推進されたい。

平成27年8月6日

関西国際空港全体構想促進協議会

会長	(公社)関西経済連合会	会長	森	井	詳	介
副会長	大阪府知事	理事	松	戸	一	郎
〃	兵庫県知事	理事	井	坂	敏	三
〃	和歌山県知事	理事長	仁	下	吉	伸
〃	大阪市	市長	橋	山	修	徹
〃	堺市	市長	竹	元	喜	身
〃	神戸市	市長	久	藤	茂	造
〃	大阪商工会議所	会頭	佐	藤	茂	雄